



2.5D Materials

令和3(2021)年度学術変革領域研究(A)

2.5次元物質科学： 社会変革に向けた物質科学のパラダイムシフト

2.5次元サポートスタッフ・座談会

マンガ

事務局

広報

◎もんでんひでこ × 工藤 朋子
福田 亜由美 × 柏田 百代

2.5次元領域では「Boundary（境界領域）」をキーワードに、協働的な研究活動が進められています。分野や世代を超えた交流や議論、社会に向けたアプローチを促進するには様々な仕掛けが役立ちますが、これらの運用には専門スタッフが欠かせません。今回は本領域の特徴的な広報活動といえる漫画制作者のもんでん、先生方の領域活動を支える事務局スタッフの工藤と福田、ニュースレター担当の柏田により、サポートスタッフから見た2.5次元領域について座談会を行いました。

ご自身の役割を教えてください。

柏田 広報担当でライターをしています。ニュースレターにおける対談や座談会を記事にしたり、会議やイベントレポートの編集を行ったりしています。

工藤 九大吾郷研にある事務局スタッフです。総括班の予算管理、手配調整、イベントの裏方、申請書や報告書、会議資料作成など、支援業務全般を行っています。

福田 ホームページの更新管理や旅費の申請、会議の準備、支援業務全般に関わっています。

もんでん 連載マンガ「2.5次元研究室へようこそ」を制作しています。

2.5次元領域に出会ったきっかけは？

柏田 領域研究のようなプロジェクトの広報活動で科学漫画を連載することは、これまでにない2.5次元領域独自の取り組みですね。もんでんさんはどのような経緯で参加することになったのでしょうか？

もんでん 私は物理分野の研究者で、科学コミュニケー

ター、漫画も描いています。ある日、岡田さん(A01)のお知り合いの研究者の方から科学コミュニケーターを探しているとお声がけいただきました。詳しくお話を伺うと、科学コミュニケーターで漫画を描ける人を探していて、さらに広報ライターもお願いしたいとのことでした。全てをお引き受けすることは難しく、人材発掘がより大変そうな漫画をお引き受けしました。お話を伺った当初は4コマ漫画だと思っていたのですが、いつの間にかストーリー漫画を描くことになり、四苦八苦しています(笑)。

柏田 そんな経緯があったんですね。事務局の皆様はいかがですか？

工藤 短期で大学の事務のお仕事をしていたところ、契約が切れるタイミングで領域事務局の募集がありました。初めは週3日で業務にあたっていました。現在は週5日で勤務しています。

福田 大学の事務をしていたときにサイエンスカフェで吾郷先生にお会いしました。その後、休職していたタイミングでたまたまお声がけいただき、お仕事することになりました。

柏田 何が縁になるか分かりませんね。私はWEBライターをしていたころから、いつか科学記事に関わりたと思い、機会を探していました。そんな時に偶然、2.5次元の広報ライター募集を見かけたため、応募させていただきました。

やりがいやモチベーションについて教えてください。

工藤 事務局のお仕事は、何もかも未経験な状態でスタートしました。初めての業務に取り組んでいくた

め、毎日が学びの連続、全てがやりがいという状況です。吾郷先生はいつも納得度の高い進め方をされますし、他の先生方も協力的で、お仕事がしやすい環境です。今後も黒子となって動き、縁の下でお支えできたらと考えています。

福田 前職では気が付かなかったのですが、先生方がどれほどお忙しいか、近くでお仕事する中で改めて認識しました。先生方は大学内の授業が中心とと思っていましたが、講演や出張が多く驚いています。そのため、できるだけサポートしていきたいと心から思っています。また理系の専門的な学術の世界が初めてなので、新しく知ることがたくさんあります。新発見ばかりです。

工藤 序盤の時期に総括班会議に同席した際、先生方が目指すところについてお話されていました。その時に松田先生が、自分たちが目指してるのはノーベル賞だとおっしゃっていて。私はサポートスタッフですが、そこに少しでも関わっているかと思うと気が引き締まる思いになりました。

もんでん そうですね。領域アドバイザーの先生も学理をしっかりしないとして仰っていて、松田さん達がとても共感していらしたのを私も覚えてます。

柏田 学理の構築というお話の背景にはそのような思いがあったんですね。もんでんさんは漫画制作においてご苦労が多いと思います。それを超えるやりがいについて教えてください。

もんでん 誰も描いたことがないものを制作しているので、それはもうありがたいですね。科学コミュニケーターとして先端科学に関わっていることが楽しくて仕方がありません。この仕事では、2.5次元領域で進んでいる研究により、今後の生活がどのように変化するかという未来予想ができます。それをみんなに共有できるのはとても嬉しいことです。でも漫画で表現することは本当に難しく、苦しみながら制作しています。1ページ1ページ、苦しみながらひねり出して、漫画としてページが繋がった時に一番達成感を感じています。

柏田 私もお仕事をしていなかったら直接お話を伺う機会がないような先生方から、ざっくばらんに色々なお話を聞かせていただいて、本当に役得だと思っています。実は紙面の都合があり内容を絞らなくてはならないことが多く、お話しいただいたエピソードを泣く泣く削っているんですよ。専門的な内容に関して表層しか理解できないのですが、2.5次元分野に対する親しみや愛着が増しました。また、「読みましたよ」とお声がけいただけることもあり、とても嬉しく、励みになっています。

大学ならではの感じたことはありますか？

福田 これまで身近に感じてこなかった文科省の政策の話などは、この国のしくみや取り組みを肌で感じる機会になっています。単なるニュースではなく現実として感じられるのは、大学にいるからこそだと思います。

工藤 あとは学生さんがいることでしょうか？事務局で働くまでは、この年代の方々と接する機会がなかったので新鮮です。

もんでん 領域会議で拝見していると、若手の皆さんが元気だと感じます。初めと比べて、だんだん参加者が増えていませんか？とても盛況で、活発ですね。ポスターセッションでもしっかり交流していて、年月を重ねる毎に顔なじみになっていく様子が見られます。私の院生時代とは交流の仕方が全然違って、活発に議論する土壌ができてるんだなと思いました。

ご自身の変化について教えてください。

工藤 未経験からスタートし、メールの書き方、エクセルの使い方、ホームページのCMS、イベントサポート、様々な書類と1つ1つできるようになりました。何かのツールが使えるというスキルだけでなく、総合的なスキルが身についたように思います。就職氷河期世代で自己肯定感がとても低かったのですが、そんな自分にも変化があつて、何とかなると思えるようになりました。

福田 私はまだまだこれからです！先生方が研究を進めていらっしゃる様子を間近で拝見し、その成果がどんなに大切なものかが今まで以上に分かるようになりました。これからも丁寧に業務を進めていきたいです。

もんでん この数年、修羅場を何度も経験し、どうにかなると思うようになりました。本当に忍耐強くなりましたね。また、私は普段、大学の講義で17～19世紀の物理学を教えています。2.5次元に関わることは最先端の科学に触れる貴重な機会となっていて、こんな面白そうなことが研究されてるんだよって授業中に触れることもあり、色々な面で広がった実感があります。柏田さんは？

柏田 私はいつか科学関連の記事に携われたらと思いつつライターをしていたので、そのいつかが叶って幸せです。その反面、自分の足りなさとも向き合うことにもなりましたが、見たことのない世界を見せていただき、見たい世界が広がりました。これからもこの領域や先生方の研究、人間的魅力を伝えられるように、力を尽くしたいと思います。



第9回領域会議・会場にて(左から福田、もんでん、工藤、柏田)

敬称略・順不同

領域ホームページ <https://25d-materials.jp>
(ニュースレター公開日：2025年7月29日)